

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 気仙沼市立唐桑中学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒988-0541

宮城県気仙沼市唐桑町北中130番地

E-mail kakuwa-chu@kesenuma.ed.jp

Website http://www.kesenuma.ed.jp/kakuwa-cyuu/index.php?page\_id=0

幼児児童生徒数 男子 66名 女子 59名 合計 125名

幼児・児童・生徒の年齢 13歳～15歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

持続可能で発展的な社会をつくるための担い手の育成を目指し、地域社会の一員として身近な地域に貢献する人材を育成するとともに、国際社会の一員としてグローバルな視点に立って行動する人材を育成する。

昨年度より、本校では総合的な学習の時間に、「まちづくり」をテーマにした学習を始めている。「なぜ」「どうすればよいのか」といった疑問や課題を大切にさせながら、探究的な学習を展開した。思考力・判断力・表現力を伸ばすために学年ごとに設定したテーマを追究させた。課題発見と課題解決の機会を段階的に与えていく中で、自己の生き方について主体的に考えさせることをESDのねらいとしている。

全体のテーマ「まちを知り、どのようなまちを目指し、そのためにどうしていけばいいのか？」ESDで重視する7つの能力や態度はもとより、志教育の視点との関連も重視し、4つの目指す能力と態度を明確にした。そして、それをもとに評価の観点を設定した。3年間で取り組む6つの探究的な学習の単元を設定し、その実践を通して、それぞれの能力や態度を段階的に身に付けさせるようにしていきたいと考える。

①第1学年の取組「探究的な学習『防災』」

「防災のまち」として、どのようなまちを目指し、そのためにどうしていけばいいのか

1年生は「防災のまち」をテーマに取り組んだ。海拔表示を効果的な位置に設置させるため、ショート避難訓練を行い、それを基に防災マップをつくり海拔表示設置場所の検討をさせた。活動をさせる中で試行錯誤をくり返し、より探究的で、より深い学習になるよう取り組ませた。特に今年度は、過去に取り付けられた海拔表示のメンテナンスや、標高について正確に調べる方法について改善を図った。今後、成果物を活用して、幼稚園や小学校との連携の在り方についても再検討したいと考えている。

②第2学年の取組「探究的な学習『福祉』」

「福祉のまち」として、どのようなまちを目指し、そのためにどうしていけばいいのか

2年生では「福祉のまち」をテーマに取り組ませた。福祉施設での体験学習では、例年はじめは戸惑う様子も見られたが、徐々に自ら進んでコミュニケーションを図ろうとする姿が出てきた。スムーズに活動がはじめられるように、訪問前の事前学習に工夫を加えたとともに、生徒が訪問する施設を1カ所から2カ所に増やし、学習の機会をより多くすることとした。

③第3学年の取組「探究的な学習『海』」

「海のまち」として、どのようなまちを目指し、そのためにどうしていけばいいのか

3年生では「海のまち」をテーマに取り組ませた。本校が取り組んでいる「海洋教育」を土台に、コースに分かれて課題解決型の学習を行った。コースは「漁業」「食品加工」「観光」「伝統芸能」の4コースとなった。唐桑をPRするパンフレットや伝統芸能の復活、また、漁業協同組合と加工食品セットや加工食品を活用したレシピの開発も行った。成果は海洋教育子どもサミットで発表。



①の写真  
ショート避難訓練・海拔表示



②の写真  
福祉施設での交流



③の写真  
漁師さんへ取材

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

東北食べる通信（パンフレットづくりの参考として使用した。編集者に来ていただき講話とワークショップも行っていただいた。）
---

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めるために、以下の事を重視した。

- ① 教師や生徒の主体性や創造性を大切にしながら、総合的で探求的な教育課程づくりによって、学校全体の全教育課程をとおしてE S Dを推進する。
- ② 「志教育」との関連を図りながらE S Dを推進し、知・徳・体を生かして実践し、自己の夢や希望を実現するたくましい主体を育成する。
- ③ 教育課程では、特に3年間の関連を持たせた「総合的な学習の時間」での指導をE S Dの中核として扱う。
- ④ E S Dの指導について教員の研修を進めるとともに、指導の成果を評価する方法を工夫して指導に位置づける。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

地域において多様な主体が持続可能な社会づくりに参加し連携できるよう、学校と地域社会のネットワークを構築した。一例として、地元に住居するコーディネーターを取り入れたことで、これまで教師が行ってきた他機関との連絡調整の負担を軽減させることができた。また、生徒の学習内容に関連性のある専門的な人材を紹介してもらうこともできた。地元出身のコーディネーターということで、異動もなく、継続的に活動に取り組める体制ができたと思う。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

全学年文化祭でのブース発表、さらに3年生では「海洋教育子どもサミット」や「まちづくり発表会」へ参加して成果発表を行った。その際、発表を聞いての感想等を来賓や来客に付箋に書いていただいたことで、活動の反省に生かすことができた。発表をくり返す中で、表現力が身に付いた。また、地域の賞賛を得ることができ、生徒にとって大きな自信となった。今後、発表を、原稿を見ずに、自分のものとして発表できるように指導していきたいと思う。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

成果の発表については、海洋教育こどもサミットやまちづくり発表会、自校の文化祭等で発表した。また、漁業協働組合のお力をお借りし、インターネット上で公開(「ごっつおうセット」として販売)したり、パンフレットを作成して各方面で配付したりもした。生徒は自分たちが作成した成果物が、評価されたり、実際に販売できたりしたことは、自分たちでも(中学生でも)できるんだという自信となり、大きな教育効果を得ることができたと思われる。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

学校以外の団体として、「一般社団法人まるオフィス」にコーディネーターを依頼し、地域の事業者や専門家の方々と協働的に学習を進めた。また以下の活動等に参加し、情報を交換や成果を発表した。

- 気仙沼 ESD 円卓会議
- 宮城県防災フォーラム
- 海洋教育こどもサミット in 東北
- 気仙沼市防災フォーラム
- 居住地交流
- 唐桑地区まちづくり発表会

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

地域の幼稚園・小学校との連携を行うことができた。特に海洋教育に関しては、幼・小・中で学習内容を整理し、12年間を通して系統的に学習できるようにした。幼稚園、小学校でも地元の事業所等がかかわっており、まち全体で学習に取り組んでいく体制が構築された。今後さらに連携を深めて行きたいと考えている。さらに、ユネスコスクールのネットワークを活用し、将来的には、山沿いの学校との交流等ができるところまでいければと夢を抱いている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

今年度は地域との関わりが特に印象的に残った。特に3年生で行った学習の伝統芸能コースでは、人材不足が原因で、消えかかっていた伝統芸能が、今回の学習のおかげで一時的にでも復活し、関係者を感動させるまでに至った。学校と地域が一つになって学習を進めた素晴らしい成果の一つであろう。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

今年度も、地域性を生かした、「まちづくり」をテーマに学習する。  
1年生は「防災のまち」をテーマに取り組む。ショート避難訓練，防災マップづくり，海拔表示設置場所の検討をさせたい。過去に取り付けられた海拔表示のメンテナンスや，標高について正確に調べる方法について改善を図る。また，幼稚園や小学校との連携の在り方についても再検討する。  
2年生では「福祉のまち」をテーマに取り組む。福祉施設での体験学習では，訪問前の事前学習に講話を入れるなど工夫を加えたい。また，生徒が訪問する施設を1カ所から2カ所に増やし，学習の機会をより多くする。  
3年生では「海のまち」をテーマに取り組ませる。コースに分かれて課題解決型の学習を行う。幼小中の連携や関係機関との連絡調整，経費の問題や時期など工夫していきたい。